

危機管理型水位計の設置について

1 危機管理型水位計設置の経緯

九州北部豪雨等の豪雨災害による中小河川の氾濫など、近年の豪雨災害の特徴を踏まえて実施された「中小河川緊急治水対策プロジェクト」により、今後概ね3年間（平成32年度目処）で、全国の道府県において、約5,800箇所の新規水位計を設置すると発表された。

2 鹿児島県における危機管理型水位計設置箇所の選定

- ①平成29年度鹿児島県水防計画書に記載してある重要水防区域等の河川
- ②事業実施中の河川
- ③近年浸水実績のある河川
- ④旧市町村単位で役場（現支所等）に最も近い河川
- ⑤1水系に1箇所かつ河川延長 $L=2$ km以上および流域面積 $A=5$ km²以上

↓

水防災意識社会再構築協議会の中で、関係市町村等へ設置箇所の確認
○市町村の把握している「浸水実績」などを再整理し、

144河川，150箇所を選定。

3 徳之島事務所管内の設置箇所の選定

河川名	設置箇所	河口からの距離等	備考
大瀬川	第3大瀬橋	710m（亀津）	
亀徳川	秋津橋	190m（亀徳）	
下田川	前川橋	680m（花徳）	
真瀬名川	南西橋	360m（平土野）	
計	4河川，4箇所を選定		

4 危機管理型水位計の設置時期（令和2年9月予定）

※新型コロナウイルス感染症の影響により延伸の予定あり

5 簡易水位標識の設置

- ・河川水位の目安として、河川護岸両岸に高さ1m毎にペイント
- ・設置箇所は、3徳之島事務所管内の設置箇所の4河川，4箇所
- ・大瀬川は平成30年12月設置，他3河川は令和2年3月設置

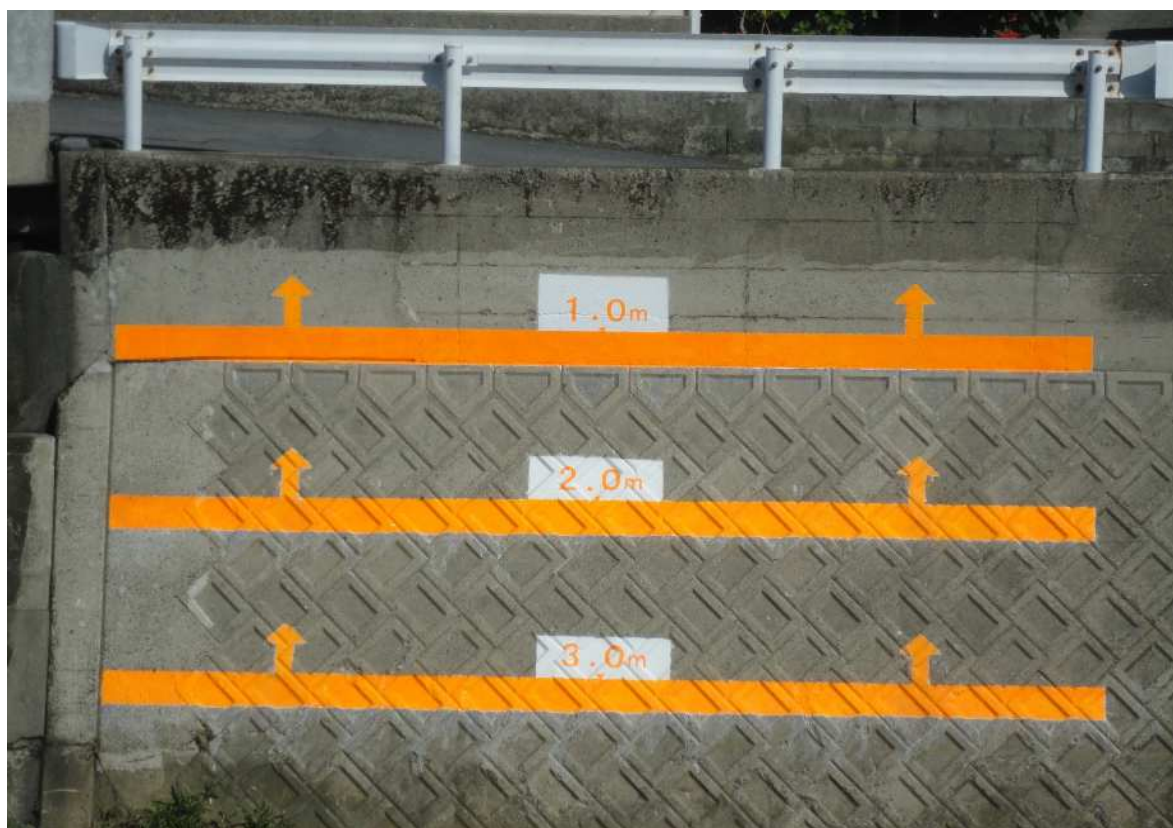
6 危機管理型水位計の機能

- ・ 通常水位の場合にはデータは送らず，水位上昇し，設定値を超えた場合にデータを送り始める（電池温存のため）。
- ・ 設置費用 約2百万円／箇所
（従来の水位計 → 約2千万円／箇所）
- ・ 通信費が，安価（1千円／月 程度）
通信は，既存の携帯電話網を使用
- ・ 5年間はメンテナンスフリー
（電源は太陽光発電）



【危機管理型水位計（一級河川川内川水系羽月川）】

二級河川 大瀬川（徳之島町亀津） 第3大瀬橋直下流の簡易水位標識



二級河川 亀徳川（徳之島町亀徳） 秋津橋直下流の簡易水位標識



二級河川 下田川（徳之島町花徳） 前川橋直下流の簡易水位標識



二級河川 真瀬名川（天城町平土野） 南西橋直下流の簡易水位標識

